

コミカンソウ (コミカンソウ科/トウダイグサ科)

Phyllanthus lepidocarpus

1年草。夏の畑、庭、空き地などに生育。水平に広がる枝に球形の小さな果実が並んでつくので小蜜柑草とした。

成長初期。初めは倒卵形の葉が数枚集まってつく [7月]



茎が立ち、枝がほぼ水平にのびる。枝には20~30枚ほどの葉が左右に並び、一見羽状複葉かと思わせる [7月、愛媛]



葉腋に花がつく。枝の先寄りには雄花が、もと寄りには雌花がつく。果実の表面にいば状の突起が密生 [7月、愛媛]



雄花は葉腋に1~3個つく。がく片6、雄しべは3で合着



雌花は1個ずつつく。柱頭は3個

ナガエコミカンソウ (ブラジルコミカンソウ) (コミカンソウ科/トウダイグサ科)

Phyllanthus tenellus

20世紀の終わりごろ記録された帰化植物。1年草または複数年草。ときに茎が木化する。街なかの空き地、道ばた、花壇などに生育。コミカンソウより大形で雌花と果実の柄が長い。

茎が立ち、枝はほぼ水平または斜上する。葉は楕円形で互生、一見羽状複葉を思わせる [9月]



高さはときに1mを越える [9月]

果実は偏球形で柄が長い [9月]



葉腋に雄花と雌花は別についたり混じってついたりする。雄花はがく片5、雄しべ4~5、離生。雌花はがく片5~6。柱頭は3個で先が分かれる